

街を行く

第116回 Stay Home

街に行けない(その4)

「そろそろ街に行ける」と心躍らせたのも束の間、その希望は脆くも打ち砕かれてしまいました。第二波を思わせる感染者増加で、東京は「GO TOキャンペーン」からはじき出されてしまいました。現下の状況で街を訪れることなど不謹慎極まります。今さら「STAY HOME」でもないと思いますが、再び経済が冷え込むキャンペーンが始まってしまうのでしょうか。

規制や自粛による窮屈な生活で、多くの方がストレスを感じ、心療内科に通う人も増えているみたいです。感染リスクから行動が慎重となるのは当たり前ですが、同時に普段の生活リズムも取り戻さないと、ウィルス感染よりも恐ろしい事態を招くのではないのでしょうか。ワクチンが出来るまでの辛抱が、この先どの程度かは計り知れません。そんな中でも、長期戦を前提に新しいライフスタイル構築を進めることが必要だと思います。

もう一つ、恐ろしいのは世界の分断です。フランスがEU軍設立を呼び掛けようとしています。各国が自主防衛を口実に完全に国家主義に走っています。世の中の流れに逆行し、自由に世界の街を訪れるのが困難になるかもしれません。代わりにバーチャルな「街を行く」が始まる日が来るのですかね？

街は実際に目で見て肌で触れ存在を感じるものです。オンライン化などでリアル感が薄れれば、街の魅力出しに個性が益々必要となり、それが何よりの財産になっていくのでしょうか。

街の在り方の変化は、コロナ騒動が落ちついても進んでいくと思います。



福沢諭吉先生。経済、社会、街のあり方が変化しそうなとき、偉人のお話が聞きたくなりますね。

WEBによって世界が狭くなり、大都市一辺倒から、自分の生活様式で選ぶ街が求められる気がします。その暁には「地方の時代」がやってくるかも知れません。

地方の時代となるために大事なものは、ミニ大都市でなく、個性豊かな街であることは間違いありません。誰からも選ばれる街づくりが従来の主流でしたが、今後は選んだ人達が自分たちの手で築く街づくりになります。昔よく言われたフレーズですが、「わが街」です。

コロナでの破壊が新しい街を創造する本当の意味での街のイノベーションが起こってきそうですね。いつかは来るだろうと思っていましたが、流石にこんな格好でくるとは思いませんでした。幾多のマーケットの荒海を乗り越えて

きた小生の経験、想像をはるかに超える状況となってまいりましたが、いち早く現実を受け止め対応するのが小生の本領ですから、このマーケットも必ず乗り越えてみせますよ。それが出来て本場の「レジェンド」ですからね。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。